

チヨロとゴンタ。我が家で飼っている、二匹の猫の名前です。二匹ともオス猫です。以前は、近所のおばあさんが飼っていた猫たちでした。おばあさんが病気で亡くなってしまったため、私の家で引き取るようになりました。我が家に来て、もう四年になります。

チヨロは、年齢十二歳のクリーム色の茶トラです。調べてみたところ、人間だと六十四歳のおじさん猫でした。昨年十二月末に体調が悪くなってしまい、年明けに急いで動物病院へ連れていきまし。血液検査や超音波検査、注射、点滴、薬、入院費で、合計八万円かかってしまいました。猫に人間のような健康保険はききません。三日間の入院でした。退院してからも、家では薬を飲ませなければなりません。錠剤の薬を潰して、ウェットフードに混ぜて食べさせました。おじさん猫でも、ご飯に薬が混ざっていることに気づいてしまうようで、食べませんでした。薬を飲まないと治らないので、かわいそうだけれど、無理やり口を開け、食べさせました。あんなにたくさんの検査をしたけれど、病気の原因は、結局分かりません。おそらく、歯周病で歯茎がひどく赤くなっており、歯石も多かったので、口から何らかの菌が入ってしまい、それに感染した可能性がある、ということでした。人間と同じように、歯は一生もの。お口のケアは何歳であっても、とても大切だと分かりました。

今年の七月にも、チヨロは動物病院へ行きました。今度は、他の猫とけんかをしたのか、顎の下を噛まれて大きな傷ができていました。その傷が腫れて、膿が出てきてしまったのです。病院に連れていくと、傷口を洗浄して、傷の炎症が悪化しないように注射を打つ

てもらいました。あまりにも傷が酷いので、一週間エリザベスカラーを付けることになりました。エリザベスカラーとは、傷口を舐めないようにするため首に付ける、ラップのような形の保護具です。エリザベスカラーを付けたチヨロは、家に帰ってくると、家の中のあらゆる所にぶつかって、上手に動き回ることができなくなっていました。周りが見えないわけではなく、猫は、ひげが広がっていないと方向感覚がなくなってしまうことが原因だそうです。動物にとつてひげは、想像以上に大切なものと分かりました。一週間後に、再び病院へ連れて行くと、経過が順調だったようで、エリザベスカラーを取ってもらえました。きっと若い猫なら何でもない傷でしたが、人間が年を取ると傷の治りが悪くなるように、動物たちにとつても老いてからの傷は、人間以上に命取りになるのかもしれない。エリザベスカラーが取れて、いつものように自由に動き回るチヨロを見ながら、当たり前のありがたさを感じました。

もう一匹の猫のゴンタの年齢は、十九歳。白色の毛が入ったサバトラです。人間だと、九十二歳で、チヨロよりずっとおじいさん猫です。とても高齢なので、だんだんと、今までできていたことができなくなってきました。最近では、おしっこが上手にできません。猫は、トイレを用意しておく、ちゃんとその中でおしっこをして、砂をかけてくれます。しかし、最近のゴンタは、トイレの箱の中でできなくなってしまう、前足を箱の中に入れてただけでおしっこが出てしまうことが多くなりました。トイレの周りのカーペットがとても臭かったので、はがしてみたところ、おしっこを箱の中でできず、何度も失敗してしまった部分の床が腐っていました。まさか、こんなにも大変なことになっているとは思わず、驚きました。今では、どこでおしっこをしてしまってもいいように、トイレの周りにペットシートを敷いてあげています。日に日にペットシートの場所が広がり、トイレだらけの部屋みたいです。

トイレ以外でも、ゴンタのおじいさん行動が見られます。自分が

ご飯を食べたのか分からなくなってしまいうようで、ご飯を欲しがって何度も鳴くのです。かわいそうなので、ご飯をあげていたのですが、今度は、ドライフードを食べすぎてしまいました。食べすぎたドライフードはお腹の中で上手く消化されず、消化されないうちにゴンタが飲んだ水分を吸収して膨らみ、吐き戻してしまいます。その繰り返しです。猫も高齢になると、人間と同じで、認知症になるのではないかと思いました。

さらに、夜には夜鳴きがひどくなりました。水を飲んで鳴き、トイレをしては鳴き、を繰り返すのです。その鳴き声で、私たちは夜中に何度も起こされてしまいます。これも老化と関わりがあり、夜行性が強く出てきているのではないかと思いました。何度も大きな声で鳴くのですが、何を伝えたいのかどうしても理解できず、心苦しい思いがしました。

そんなチョロとゴンタの様子から、私は我が家の愛猫たちの老化を強く意識するようになりました。少しでも、知識を増やせるとよいと考え、猫の老化についてインターネットで調べてみました。猫が年を取る速さは、人間の四倍です。しかも、最初の二年間で二十四歳まで成長し、そこから一年ごとに四歳ずつ年を取っていくことが分かりました。つまり、十一歳頃から、人間でいうと六十歳になる頃から、老化の症状が表れ始めます。毛のツヤがなくなる、白髪が生える、太ももが細くなる、歯が黄ばむ、目やにが増えるなど、外見上の変化が見られるようになるのが十一歳頃からです。その他に、食欲が落ちる、寝る時間が増える、トイレの失敗が増える、グルーミングと呼ばれる毛づくろいをする行動や運動量が減る、おもちゃで遊ばなくなるなど、体の機能の低下に伴う症状もあるそうです。

ゴンタは、ほぼすべての症状が当てはまります。もう十九歳なので当然かもしれません。チョロにも当てはまる症状があるので、我が家の愛猫たちは二匹とも老化していると実感しました。猫は、高

齢になると、腎臓病や心臓病、関節炎、認知症、ガンにもなりやすくなります。人間と同じように、猫にも老化に伴う病気があるのだと知りました。ゴンタの行動をきっかけに、今度は、猫の認知症について調べてみました。すると、夜鳴き、徘徊、粗相などの症状が出るようになるを書いてありました。夜鳴きをする原因は、老化によって時間感覚がなくなってしまう、昼夜逆転の生活になることで起こります。自分のいる場所が分からなくなってくると、徘徊の症状が出るようになります。粗相は、他の病気が原因である可能性もあります。トイレや排せつの感覚が分からなくなることが原因で起きます。認知症の進行を遅らせるには、声かけをして、撫で、コミュニケーションを取り、脳に刺激を与えることが大切です。適度な運動や日光浴も良いと言われています。これも人間と同じです。

老化に特効薬はありません。ただ、何もしないより、今からできることがたくさんあります。知識を得て、それを心がけて実践していけば、何か良い変化があるかもしれません。チョロやゴンタとのこれからの生活で意識していきたいと思えます。三年生になり、より大切に集中したいテスト週間に、夜鳴きで起こされ、正直、頭にくることもあります。でも、チョロもゴンタも大切な私の家族です。そして、残された時間は、きつともう少なくなっていると思います。命を預かった飼い主としての責任、大切な家族のために、自分にできることをたくさん探して、一緒に過ごせる時間を大切にしたいです。チョロとゴンタが我が家で過ごした幸せを感じてくれるようにお世話していきたいです。そして、今後関わるであろう、祖父母の、両親の、そして自分の老化とどう向き合っていくか、何ができるかを考えるきっかけをくれたチョロとゴンタに感謝して生活していきたいです。